

横浜市の高校で職業体験・就職ガイダンス



ブースでの自衛隊制度説明



「野外炊具2号」作業展示中の隊員



自衛隊神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 平原一陸尉）は、9月20日（金）横浜総合高等学校（横浜市）より依頼を受け「第6回 横浜未来博」にて職業体験・就職ガイダンスに対する支援を行った。これは高校生が「進路を考えることに対して自分の未来に希望を持つことだ」と感じてもらうために、毎年この時期に開催されているもので、例年80以上の大学、短大、専門学校及び一般企業が体験・相談ブースを開き、楽しく進路を考えるテーマパークイベントとして開催されているものである。当日は横浜総合高校の生徒約900名のほか、保護者及び近隣の住民も来場した。自衛隊は第一師団第一後方支援連隊の支援を受け、装備品等の展示説明を行うとともに自衛隊説明ブースを設け「自衛隊の仕事」を来場した学生等に丁寧に紹介した。野外炊具の展示には多くの生徒や家族、近隣住民が訪れ、災害派遣等での自衛隊の活躍を振り返っていた。また会場の一角では横浜総合高校を本年春卒業して、陸上自衛隊朝霞駐屯地女性自衛官教育隊で教育中の先輩隊員を写真で紹介し、顔見知りの学生が訪れ、懐かしさを感じていたのが印象的だった。

横浜中央募集案内所は、「今後もこのような支援を行い、一般市民の理解を得るとともに、防衛省・自衛隊の魅力伝え、志願者の獲得に努める」としている。

UH-1ヘリコプターの体験搭乗に募集対象者を案内



ちょっと違う自衛隊のブース

自衛隊神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 平原一陸尉）は、9月28日（土）東部方面へりコプター隊が陸上自衛隊立川駐屯地に於いて実施する体験搭乗に募集対象者を案内した。これは募集対象者等に対し、自衛隊に対する一層の理解を得るとともに、防衛意識の拡充を図ることを目的に実施されるもので、神奈川地方協力本部から募集対象者等約30名が参加し、各担当広報官が陸上自衛隊立川駐屯地までの輸送支援及び現地での案内誘導を行った。当日は秋空が広がる絶好のフライト日和となり、立川駐屯地に到着すると全般説明や安全教育等を受けた後ヘリコプター前で記念撮影を行った。ほとんどの参加者が初めての体験とあって搭乗前の顔にやや緊張が見られたが、写真撮影では、にこやかに応じてくれた。早速1グループ目から体験搭乗が開始され、約20分間のフライトを終えた参加者からは「楽しかったです」「上空からの東京の景色は最高でした」などの感想が聞けた。全てのフライトが無事終了し、参加者は名残惜しそうに広報官とともに帰路についた。

横浜中央募集案内所は、「今後もこのようなイベントへの参加を積極的に募集対象者等に勧め、自衛隊に対する理解を得るとともに、受験入隊率向上を図っていき、募集成果につなげていきたい」としている。

横浜中央募集案内所は、「今後もこのようなイベントへの参加を積極的に募集対象者等に勧め、自衛隊に対する理解を得るとともに、受験入隊率向上を図っていき、募集成果につなげていきたい」としている。

地方協力本部で臨時勤務を終えて ～3海曹になって地本でまた勤務したい！～



事務所でPC作業



横浜防災フェアにて制度説明する齋藤海士長



横浜中央募集案内所所員と記念撮影

自衛隊神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 平原一陸尉）は、海上自衛隊横須賀地方総監部防衛部より広報官の臨時勤務についての支援を得たので紹介する。

齋藤 みさき海士長は募集広報支援を目的に令和元年7月10日から同年9月30日までの間、神奈川地方協力本部で臨時勤務した。勤務の内容は、主に募集対象者宅への家庭訪問、進学フェスタでの制度説明、自治会へのポスター掲示及び学校訪問等で、募集事務所の各種業務を積極的に実施した。また募集対象者等の富士総合火力演習研修や防災フェア、転職・就職フェアなどでの自衛隊制度説明など幅広い範囲で活躍した。齋藤海士長は「最初は、地本ではどんな仕事をするのかと不安だった」が日が経つにつれ、「高校生時代を思い出しながら今の高校生に説明しました」と述べるなど次第に慣れてきた様子だった。臨時勤務を終了するにあたって感想を尋ねると「年上の人に対する説明はとも難しかった」と苦勞した思いも話してくるとともに「全く知らない人に話しかけることが得意な、人見知りしない自分の性格を活かすことができました」「早く3海曹になってまた地方協力本部で勤務したいです」と目を輝かせて答えてくれた。

横浜中央募集案内所は「このような臨時勤務者の派遣に対し部隊側と齋藤海士長の活躍に感謝しつつ、経験を通して感じた事など意見を聞きながら今後の募集成果につなげていきたい」としている。